

22/1/20 名古屋城木造復元事業市民向け説明会（質疑応答）

名古屋市民オンブズマンによる、半自動文字起こしアプリによる文字起こし

貴田： 守山区から来ました貴田といいます。

今朝の新聞に、名古屋市が木造復元、着実に前進と書いてありました。

全くそうは思いません。私は座礁をしていると思います。

木造復元っていうのは、やっぱりもともと無理なんじゃないかと最近思います。

それで観光文化交流局の方に3点聞きます。

1点目。

知り合いの1級建築士の方から、巨大な木造建築物、名古屋城天守閣は、建築基準法に何重も違反して、非常に危険な建物になると言われました。

東京の孫を連れていきたくないたった一つの出口しかない。

大天守と小天守近いそこから火が出たときに、逃げ場ありません。

昨日の説明会では、消防設備システム評価専門委員会から、5階窓からはしご車への移動は、恐怖で動けないのでは、こういうそういう指摘が紹介されたそうです。

こういうリスクを含んだ情報を、なぜ検討したら市民に知らせないのか、知らせてほしいと思います。

2点目。

先ほども順調に進んでいるというそういう説明がありましたが、石垣保全、基礎構造、バリアフリーの課題についてお尋ねします。

11月の市議会での質疑からですが、御深井丸の石垣が、深刻な状態になっていて、内堀を埋める方法は絶望的だと。石垣の上を歩くことすら危険という有識者の発言がありました。非常に衝撃的でした。

天守台の石垣も含め、どう対応していくのか。何年もかかると思うんですね。

でもこれは最優先だと思います。

それから、基礎構造は調整会議がなかなか持てない状況です。

どういう基礎構造にするか具体的な姿が見えてこない。

結論はいつ出すんですか？（あと、30秒でお願いします）

バリアフリーの新技术不可能だから1階まででよいと言ってるように聞こえるんですが、良いものが出なかったらどうするんですか。

3つ目。収支計画、いつ迄出すんでしょうか。

そもそも当初の計画では、年間350万の来場者が50年続くことを前提にした無理な計画でした。新型コロナの影響で国内外からの来場者が見込めない、そういう状況です。

どうするのか見通しを教えてください。

入場料で賄うと税金は一切使わない、とそういうことだったと思うんですが、どうでしょうか？以上です。

林： ありがとうございます。

1つ目が建築基準法に違反してないのかっていう話で、何かもしリスクがあるのであれば、そのリスクを市民に知らせて欲しいという話でしたね。

荒川： はいでは基準法の違反ではないかというお問い合わせをいただいたので、そちらについてお答えさせていただきます。

基準法自体ですね今の現代建築に対して、いろんな規制が掛かってくるわけなんですけれども、今回復元する木造天守閣につきましては、江戸時代の当時のまま木造で建てていくということで、その伝統建築物に対して現在の基準法はそのまま当てはめていくってことはですね、なかなか難しいところがあります。

今の基準法どういうふうになってるかと申しますと、基準法の第3条の方に、そういった伝統的な建築物、現に国法ですとか、重要文化財になっているもの、そういったものにはこの法律は適用しませんよという規定がございます。

そのこの並びの中にですね、第1項第4号というところになるんですけれども、その歴史的建造物の再現をする場合にあっては、建築基準法適用しませんよと。

ただそのときには建築審査会というところの有識者の方が入った建築審査会ってところの同意を得た上で、特定行政庁が認める場合には適用しませんよという規定がございます。

ですので、当時、昔の建物を復元するといったときにですね。

ただ建築基準法で求められているような安全性ですとか、それは構造であったり防火避難といったところもあるんですけれども、そういったものを全く無視していいわけではありませんで、そういった趣旨は尊重しながら我々としては復元していく。

その時に、じゃあどうやって防火避難だとかっていうことを担保していくのかといったときに我々が今やってるのが、日本建築センターってところですか、消防設備安全センターという第三者機関で、これはどちらも国の認めた機関でございますけども、そういったところで評定ですとか評価といったものをいただいて、安全性について確認をしているところでございます。

林： ありがとうございます。

それから2つ目っておっしゃっていた中に、また3つあって、石垣のことと、基礎構造のことバリアフリーがありますが、個別の方がいいですか？

お願いします。

村木： それではまず石垣のことについてお答えさせていただきます。

その先日の有識者会議あるいは市議会というふうに先ほど仰いましたけれども、そういったところでご指摘がありましたけれども、確かに内堀の御深井丸側の石垣、こちらにつきましては、天守閣が天守が戦災によって消失した際の熱によりまして、石材自体の劣化がかなり進んでおります。

多くの石が割れているような状況、それから割れて落ちたことによって、石と石の間に詰めておいた間詰め石と呼んでる石の間に詰めていた石が真下に落ちるような劣化が進んでおるような状況でございます。

そういった状況でございますので、極めて悪い状態であって、またあのその上が市民の方が来場者の方がお通りになる通路になってございますので、安全の面からも何らかの対処が必要であるようなご指摘をいただいたところでございます。

現在先ほどの説明にもありましたけれども、各種の調査を行っておりまして、おおむね調査を終了しておるんですけども、そういった調査結果を踏まえまして、今度はその痛んだ石材に対してどのような措置をしていくかというような修復という観点から対応検討を進めておるところでございます。それにつきまして個々の石材についての検討をまず全体について行いまして、その上で個々の石材に対応する。

対応としてだけで良いのか、あるいは石垣面として何らかの対応が必要なのかといったところを今後検討してまいりたいというふうに考えておるところでございます。

その上でなんでございますが、工事に際して内堀を埋める工法が絶望的というようなご質問だったかと思っておりますけれども、こちらにつきましてもその石垣をどのように保全していくかという考え方を踏まえて、そういった仮設計画を検討していく必要がございますので、併せて今、検討しておるところでございます。

林： はい、ありがとうございます。

荒井： 基礎構造についてご質問いただきましてありがとうございます。

この基礎構造につきましては、この天守閣木造復元する事業を実現するために、非常に重要な部分であるというふうに我々も考えております。

本日ですら資料の中9ページに、前提となる考え方ってのは3つ挙げております。

文化庁の基準を守ること。あと天守台本来の遺構に新たに手を加えず木造復元をしていくこと、あと熊本地震の被災状況を鑑み、天守台で支持しない基礎構造とするというようなことを挙げておりまして、検討を進めております。

現在、その検討する上でも必要となります天守台の、天守閣の地下部分ですら、の調査も進めているところでございます。

基礎構造の方針はですら、できるだけ早く確定してまいりたいというふうに思っておるんですが、特別史跡の整理という意味、あと天守台石垣の保存と修復、あるいは大地震時の観覧者の安全確保、耐震対策、あわせまして、復元における防火避難だとかバリアフリーさらに名古屋城にふさわしい、復元にふさわしい基礎構造にするということも含めまして、重要な課題があるというふうに思っております。

で、今現在調整会議というものを設置しておりまして、有識者から有識者の先生、構成員からスピード感をもって進めていくというようなこともご意見をいただいておりますので、精力的に検討進めていきたい、その上で来年度ですら、解体と復元をまとめていきたい、全体

計画の中に盛り込んでいきたいというふうに考えておりますので、ご理解賜りたいと思います。

林： ありがとうございます。ではバリアフリーの方、お願いします。

佐治： 今日はバリアフリーのご質問に対してお答えさせていただきます。

先ほどスライドで説明いたしました、今回お配りしておりますこの資料冊子の11枚目のプリントの中にですね木造天守の昇降に関する付加設備の方針というのが付いていると思います。

この中でも書いてあるんですが、新技術の開発を通じてバリアフリーに最大の努力をするということを今私ども考えているところでございます。公募をこれから開始してるわけですが、多くの募集が出てくることを期待しているところでございます。

なお公募をした、応募してもらったものにつきまして、審査をするわけですが、この審査するにあたって審査基準というのを作ってそれに基づいて審査をする形になります。

この基準の作成につきましては、障害者団体のご意見を聞きながら作っておりますのでそういったものに基づいて、整合の審査によって審査していくということになります。

で結果的に審査をした結果、その基準に該当しないってことがあれば、それはその時でまた考えることとなりますが、多くの提案がでていただいて、バリアフリーの実現に寄与するような昇降技術が出てくること、期待できることこれは念願しているところでございます。

林： はい、ありがとうございます。最後ですね、収支計画。

名古屋城： 収支計画についてでございますけれども、事業費につきましては木造天守閣ご入場料収入で賄うという考え方には変わりはありませんけれども、その収支計画につきましては、新たな竣工期限が定まり次第、改めて算出する必要があるというふうに考えてございます。今年度名古屋城の入場者数でございますけれども、令和3年12月末時点で約47万人となっております。

前年度の12月末までの入場者数が131万人と言ったことからちょっと1.5倍増加しているというところがございますけれども、新型コロナウイルス感染拡大前の入場者数と比べますと、まだまだ回復しているとは言えない状況ではございます。

その一方でですけれども、日観協調べですとか観光白書といったところを拝見いたしますと、コロナ禍ゆえに、観光を控えたいといった方が多くいらっしゃるという結果、それから某新聞になりますけれども、コロナ後のですね、リベンジ消費につきまして1位に旅行などのレジャー関連が取り上げられている言ったところでございます。

我々観光文化交流局といたしましてはですね、こういった時流を取り組んでいくべく、名古屋城に誘客することを図っていくことが重要であるというふうに考えてございます。

人口減少社会におきまして交流人口を増やすといったことで経済を支えていかなければならないと私も考えておりますので、名古屋城の魅力向上といったことを図っていくことで入場者を確保してまいりたいと考えているところでございます。

林： はい、ありがとうございます。では次の方。他にはいらっしゃらないですね。

西浦： ありがとうございます。南区の西浦です。よく進捗状況を聞かせていただいて、全く抽象的で数字がありません。

今、マンションとか町内会で総会のシーズンです。必ず使ったお金とその事業に対して総括をします。

今まで市のお金は、この木造についてどれだけ出せるか数字がありません。

そして、予想ですけど50億は下らないと私は思うんですけど、基本計画が駄目だったら反対するでいいとわと議員さんの中でも軽くおっしゃってたんですけど、そういうことをズルズルと何かできてない、何かできるで見通しがない、そのままお金をどんどん使ってるんじゃないですか。

そういうことは家計であっても主婦であっても大変まずい。そして、一つの企業とずっといつまでやるんですか、そういうことも約束事でおかしいんじゃないでしょうか。

私はこの事業計画が巨大であればあるほど、毎年きちんとその費用対効果を皆で、市民も議会やるべきだと思いますがいかがでしょうか？

それがない説明会なんて、何かやってる感じを私達が来たことで、アリバイを作ってあげてるようなものだと思います。

今芸所という名古屋で白川ホールが潰れ、どんどん和物も洋物もどんどん潰れています。県はコロナを一生懸命やっていて、コロナもも県に負んぶで抱っこで、名古屋市は衰退の一途です。本当に緑も減ってるし、だから、やっぱり名古屋市はこういうことに現を抜かしているんじゃないかと、市民全体が豊かになるよう、困ってるところにちゃんとリセットして、考え直す時に来てるんじゃないでしょうか。

このことばかりのまるで進んでるように見える説明会は御免です。

林： ありがとうございます。

今のご質問は2つあって、具体的な数字を見たいよってということと、一つの企業とずっと一緒にやってることについて、ちょっと意見を聞きたいなということかなと思います。

最初に具体的な数字のところをお願いします。

荒川： これまで木造天守の復元事業において使用した金額ということで、名古屋城天守閣特別会計というものを立てておりますので、そちらの方の令和2年度末までの決算の数字でございますが、支出の合計としまして約70億円となっております。

またいつまで竹中工務店さんとやるのかというお問い合わせかと思いますが、竹中工務店さんとは、プロポーザルの結果をもって優先交渉権者という立場で今いらっしゃいますので、その優先交渉権者と事業の進捗に合わせて設計ですとか、その必要な工事もしくは調査、そういったものを順次契約していく形になっておりますので、こちらとは基本的に木造復元を一緒にやっていくという形でございます。

林： ありがとうございます。

では他にいらっしゃいますでしょうか。そちらの真ん中の女性の方

稲熊： 天白から来ました稲熊と申します。

私は木造復元を進めていただきたいという立場で、今日も伺いました。

先ほど原先生のお話写真を見せていただいて益々あの姿がみたいな。

名古屋城へ行って、本当に日本一の城だなってわかる、目で見てわかるような形に早くなるといいなと思いつつながら、ちょっと憧れて描いているんですけども、ちょっと前回の説明会からも余り進展がなかったようなので、これは10年位はかかるだろうなと思って、もう私も完成を見ることはできないなと思ってるんですけども、ちょっと夢を見たいので、これからの先々工事などが始まったら、もっと名古屋市からアピールしてほしいなと。

でこの3年間ぐらいの何か泣かず飛ばすの感じで、あの人から聞かれても「どうなってるんだろうね。わからない」ってしかいえなかったのが、今こういう状態ですよとこうしてますよとか、何かそういうもっと積極的な声が聞けるといいなと思ってますので、具体的に今ここまでいってますよ。これからこうしますよっていうことをどんどん発信していただけたらなと思ってます。

それと同時に、本丸をゆくゆくは整備して元通りの形にっていう話があったので、木造天守は10年以上かかるだろうけども、同時にちょっと櫓とか門とかも再建していただけたら、ちょっとでも近づくから、ちょっと夢があるかなっていうような思いで、今日は一日、話をきかせていただきました。大変な問題が含まれていると思うんですけども、私としては積極的に作るという方向で、バリアフリーをどうしようかとか、こういうことはどうしようかっていう形で何か考えていけたらいいんじゃないかなあなんて思いながら聞かせていただきました。

林： ありがとうございます。

もっと積極的に、現状アピールしてねっていうお話と、それからついでに言ったらすごい失礼なんですけど、櫓とか門とかも、復元のご予定はどうなんでしょうね。

何かコメントいただいて、ありがとうございます

佐治： 私の方からお答えさせていただきます。どうもありがとうございます。

今回のこの説明会で一番我々が訴えたかったことにつきましては、解体先行のが申請していく中で、文化庁の方から指摘事項ということが示されまして、その答えとしまして、本丸全体を江戸期の姿に戻すその中で、象徴的な木造天守の復元を進めていくということを文化庁にお返ししたところ、そこを評価されてですね、あわせて文化庁の方から所見という形でそういう考え方を持っているのであれば、解体と復元は一体化した申請を出してくださいと、そういうことが言われてるものですから、そこを市民の皆さんにお伝えしたかったというのが今回の説明の一番の目的でございます。

先ほど私の説明の中でもその全体計画の中には石垣の保存方針であるとか、基礎構造の方針空堀方針をしっかり盛り込んでいくということで、それを令和4年度中にまとめて、文化庁にまた出していくということを説明させていただきました。

そこで次に復元検討委員会というところで諮られていくと、ある程度先が見えてくるんじゃないかなってことが考えておりますので、今後とも引き続き、そういった進捗度につきまして、事細かに適宜適切なタイミングで説明をさせていただきたいと考えております。

林： ありがとうございます。

佐治： 忘れてました。

あのもう一つ、本丸を江戸期の姿に再現するということにつきまして、当面そのまま天守を優先していかなきゃいけないと思っておりますが、将来的にはこういった構想に基づいて、本丸全体が江戸ワールドとなるような、そういったことを目指して頑張っていきたいと考えております。ありがとうございます

林： では男性の方、お願いします。

梅本： 大分厳しい意見が出てるようですけども、私も厳しい意見を言いたいと思います。昭和の梅本と申します。

前回に、私あの昭和役所で説明を聞いたんですけど、今日ほどの切迫感が全然なかったんですね。

で一番あの時にも質問したかったと思ったのは、やっぱり石垣がなんで足を引っ張ったのかということ。

それで、その現代での公法で言ったら、石垣を除いても基礎を作れば、支障なく工事を進めるんじゃないか。石垣は並行か後からでもやってもうとにかく早く木造建築で木造の本丸を作ってほしいというふうに思っとたんですよね。

それで、今1つ3、4つ質問したいと思うんですけど、一つは姫路城は、私も何十年前に行ったんですけど、あれは立派な木造で、平然として営業しとるわけですね。

それに比べて名古屋城は、名古屋市にあるものですから、あの入場者数がべらぼうに多い。そうすると、それこそバリアフリーがやれるのかどうか。

それからもう一つは、熊本城の石垣、地震で壊れたときにですね、あれ倒壊しなかったんですよ。

石垣の一角が一点で、その角がなんていうんですか、石垣が壊れずに立っただけですね。あれはどうしてなのか、不思議でしょうがなかったんですけど、

それから兎に角、色々言いたいもんですからもう止めておきますけど、とにかく早く作って欲しい。

で、今日説明を伺いましたら、本丸ばかりじゃなくて、他の周辺の整備もやりたい。

でやりたいっていう私もう80になるもんですから、それが実現するには、どこで私が見れるんかしら。そういう点がありますから、兎に角もうちょっと切迫感を持って早くやってもらいたいと思います。以上です。

林： ありがとうございます。

今のお話はですね、石垣が足を引っ張ってる理由っていうのが知りたいよっていうことと、それから姫路城というタイプで、バリアフリー名古屋城に入場者数を入れることができるんでしょうかっていうことと。それから熊本町の話ですが、熊本城が壊れないで建っているのはなんでしようっていうという話なんですけど、その辺わかる範囲でいいのかなと思います。お願いします。最初に石垣が足を引っ張っている、そのままちゃいますか

村本： 今回の事業には際しまして、石垣がどうして問題になっているかというご質問かと思いますが、あの石垣というのは本日の説明にもありましたけれども、あの築城期、江戸時代に作られたときの姿を多くのところに残しておりますので、名古屋城、特別史跡としての名古屋城とする流れの中で言いますと、それはあの本質的な価値を構成するものというような評価をしております。

ですので整備事業にあたりましてそういった本質的価値を持つものについて、何らかこの影響を与えない、特にその保存で悪い影響を与えないというようなことが整備事業を進めていく上で前提になろうかと思っております。今までその悪影響を及ぼさないというようなところを調査によって確認するというのが、今までやっておったところで、そちらに少し時間がかかったというところで、障害になっておったとお感じになったかと思っておりますけれども、整備事業を進めていくために石垣は大丈夫ですよということを確認しておる時間がかかっているというところですよ。

それから熊本城に関しましては、なぜそこが残ったかっていうのは、なかなか偶然の要素というのもあるかと思っておりますけど、隅の石というのは特別な組み方もしておりますのでそういったところが影響するのではないかなと推測はするんですけども、正直なところはわからないとしかお答えできないかなと思っております。。

林： ありがとうございます。あと、バリアフリーは。

荒川： バリアフリーはやっても名古屋も非常にたくさんの入場者数の中で、バリアフリーはやれるのかというご質問でしたけれども、バリアフリーの技術につきましては、今後公募により多くの技術を募っていきたいと考えておりました、そういった利用者数ですとか、そういったところも含めまして技術を選定していきたいというふうに考えております。

もう一つ。兎に角、早く作って欲しいということで、今日スライドの方でもお見せした本丸の将来構想というのを今日お示しさせていただきましたが、まず天守閣をやらさせていただきます、その後につきましては、それぞれまた調査研究進めながらですね、一つずつ取り組んでいくことになりますので、本丸全体を江戸期の姿にするっていうのは、非常に将来長い時間をかけてやっていくことになると思います。

おそらくあの私もそれを見ることはできないだろうなと思っておりますので、ご理解賜りたいと思います。

林： はい、ありがとうございます。

最後の一人にしたいなと思っているんですが、初めての方をお願いしたいと思って、こちらの方でお願いします。

○： どうも今日はありがとうございました。

お城好きな者でございまして、今まで現存12天守全部回っております。

そんな城好きな私はもちろん名古屋城の天守木造復元化に賛成です。

応援しております。が、質問させていただきます。

確かに今日の新聞にも着実に前進しているというコメントがありましたけれども、どうなのかなあという感じは正直、今日の説明を聞いても思いました。

確かに名古屋市の中では前進してるのかもしれませんが、今日のこのチャートを見ると、どう考えてもこの復元検討委員会が最大の山場で、ここでどうなるかで、その先がひっくり返るかどうかっていうのが決まるんじゃないいうふうに私には見えたんですけども、そういう意味では後退はしてないかもしれないけれども、着実に前進していると果たして言えるのか。今後どこを目標に復元計画を進めていくのか。ということ伺いたいです。

それから質問が一つです。要望がありますけれども、先ほど計画の中で、本丸全体の復元も将来的には考えていきたいということで、まずは天守の復元を終えてからという話がありましたが、僕はそこをちょっと考え直してほしいなと思っておりました、例えば金沢城というのは、長い時間をかけて櫓そして門を少しずつ確実に、廊の復元をですね、進めてきた経緯がある。そして今非常に見事な観光資源が出来上がってるわけですけども。

目先のことだけ、次これやったら次これってということじゃなくて、やはり本丸全体の将来的なね、ある程度の何年ぐらいまで全体のを完成させたいのかというのは僕はあつてしかるべきじゃないか。金沢なんかはちゃんとそうやってやっています。

着実に一つ一つ史跡を復元しています。

でこれはちゃんと集客にも結びついているので、天守をやったら次本丸ってということじゃなくて、ひょっとしたら同時並行的でもいいんですけども、着実にそういうタイムスケジュールをですね、作っていただければと思います。先ほどの方には申し訳ないですけど、僕は1日も早く名古屋城を復元してほしいと思ってなくて、着実に100年後もちゃんとみんなが愛されるような施設をつくってほしいと思っているので、急がずに、あまり着実に進んでいるとかですね、そういう上辺のこと言わないで、しっかり足場を踏まえつつ前に進んでほしいと思っています。

林： はい、ありがとうございます。

ご質問の方は、こちらの今日の市民向け説明会の資料の7ページの下のところですね。この復元検討委員会ってどういうことなんでしょうかっていうことで、目標はどれぐらいに置いているのでしょうか。進めていらっしゃるんですけど、もう一つがご要望で金沢城みたいに確実に将来像を描いて着実に進んでいってくれると嬉しいんだっていうお話でした。まずご質問の方をお願いします。

荒川： ご指摘の通りですね復元検討委員会が最大の山場といわれるのはご指摘のとおりです。私どもとしましてはこの解体と復元を一体とした全体計画というものを来年度いっぱいかけてまとめていきたいと。その中には、資料にありますように石垣の保存方針ですとか、基礎構造、バリアフリーといった大きな課題がございますけれども、何としても、この間来年度いっぱいで作っていききたいと。その際には、地元の有識者会議で有識者の十分な議論と合意形成を図っていくということが重要だと思っております。

その上で文化庁の方へ提出した後、そちらでの有識者のご意見いただくことになるかと思えますけれども、名古屋城の天守。非常に日本一の天守でございますので、文化庁としてもおそらくこれだけの規模のものをやったこともなくて、どのぐらい復元検討委員会の時間がかかるのかっていうのは正直読めないところでございます。

あの本丸御殿の 때가3回開かれておりますが、とてもその3回では終わらないだろうと思っておりますけれども、どのぐらいかかるのかといったときに、ちょっと想像がつかないところもございます。

ですので、我々としましてはまずは当面の解体と復元を一体とした全体計画を来年度末までに、まとめていきたいというところがまず一つの目標になっております。

林： ありがとうございます。

多くの方にご質問をいただき、ありがとうございました。

閉会の時間が参りましたので、最後に河村市長より一言、閉会のご挨拶を申し上げます。

河村市長： はい、ありがとうございました。

コロナもありますし、外も相当寒いですから、ちょっと会場寒くないか温度上げろっていうてちょこっと上がったと言ってますので、ちょっと寒かったかもしれませんが、すいません。で一つだけ申し上げておきますと、文化庁から私が言われたことですが、僕も73年ですもんで、先ほどお話があったように、八事が近いわけです。

これ、だからこれ見れんきゃかわからないが、とにかく早う名古屋の人の夢というか、1000年は大事にできる国宝1号ですよねかつてのと言いましたら。

文化庁は河村さんの気持ちはようわかるけれども、とにかく12だったかな天守が、現存天守が12で、コンクリート復元したのも12だと思うけど、12か13だったかな。

あって、みんな同じように、戦後のやつは寿命がきとるもんで、どうするかという問題になるので、その何と第1号がですね、最大のお城であるんですね国宝1号である名古屋城になっちゃたということだから、丁寧な上にも丁寧にやらさして欲しいというのが文化庁が言っとってよ、僕思うのは確かにその通りで、首里城ですね、沖縄の。あれをどうするのか、燃えちゃってやったんですけど、僕はあれをローコンクリートで復元する話は、つい一言も聞いたことない。そんな事言えなかったことはないと思います。

当然、木造復元になると思いますけど、こないだNHKの和歌山城、ついこないだです。

和歌山城の復元は問題になっって、結構長い番組ですけど、あれも戦争で燃えてますから、和歌山城ということでございますので、わしも兎に角早くやりたいのだけれど、そういうことで、河村さん丁寧な上にも丁寧に頼むわと頼まれて、もうちょっときちっとした言い方でしたんですけど、言われましたんでね。

そう言われた以上をしっかりとやろうと、作った以上は1000年は大事にしようと思う。

ですね。そんな気持ちでやらせていただいた。いうことでございます。

そんなことで、長時間にわたりましたけど、お越しいただきましてありがとうございます。またいろいろご意見いただけたと思います。

ありがとうございました。

林： 有難うございました。以上をもちまして、名古屋城天守閣の木造復元市民説明会を終了いたします。混雑緩和のため、ご案内まで席でお待ちください。座席記入カードでアンケート用紙の出口で回収いたします。また他にご質問が前はアンケート用紙にご記入ください。愛知県が厳重警戒での感染防止対策を要する要請しておりますので、早めにご帰宅いただきますようお願いいたします。それでは、忘れ物ないようお気をつけてお帰りください。本日は誠にありがとうございました。